

10年前のあのとき私は…

自転車から飛び降りて、体を丸くして、揺れがおさまるのを待ちました。

茅ヶ崎徳洲会周辺の街は、見える限りでは大きな被害はなかったので、再び自転車に乗り自宅に帰りました。

それからすぐに、家族が大船駅の電車内にいることを携帯電話で確認しました。しかし、地震による被害の大きさや、津波が押し寄せる状況がテレビで放映されると、電話はつながらなくなります。大船駅にいる家族はこの後どう行動するのかわかりません。

連絡がつかないまま日が暮れて、心配になった私は車で大船駅に向かいました。大通りは大渋滞。藤沢駅周辺は停電していて、迎えに出たことを後悔したほどの暗闇。家族と電話が繋がったのは深夜11時頃、大船駅で会えた時は既に日付が変わっていました。

いざとなると私も家族も「無かった」「できなかった」ことばかりだったなど、今思い出されます。いざとなる前に、せめて知識や情報を持っておきたいと思う今日この頃です。

「無かった」「できなかった」こと…

- ・携帯電話が繋がらなかった。
- ・公衆電話待ちが長蛇の列で順番が回ってこなかった。
- ・安否確認ができなかった。
- ・停電のため夜は灯りが全く無かった。
- ・長時間歩ける靴が無かった。
- ・飲食物や防寒着が無かった。
- ・安全ならば動かないが、この状況が安全なのか判断できなかった。
- ・情報は入ってくるが、どれが正しい情報なのかわからなかった。

などなど

(若松町幸 K)

2011年3月11日(金)14:46

その時、私は何をしていたのでしょうか？

家には、母・私・次女の3人と愛犬がいました。私はあと少しで仕事に出かける所でした。今となっては緊急地震速報が鳴ったかどうかとも忘れてしまいました…。(たぶん鳴ったと思います) グラッユラッユラッと地震が来て、今まで経験した事のないような揺れに母は「私はどうしたらいいの？」と慌て、2階にいた次女はドンドンと慌てて下に降りて来ました。

防災リーダーのベストを持っているにもかかわらず、自分もどうしたらいいのかわかりませんでした。市内で仕事をしていた長女もすぐに帰宅しました。夫はどうしていたのか覚えていません。近所の奥さんは、うちの前の道路の真ん中で不安そうな顔をされ、おろおろしていました。

電線はものすごく揺れていて、近所の車が踊っているようでした。揺れがおさまってから、次女が出口の確保をしました。私は仕事があったので出かけたのですが、その後の事は覚えていません。

この地震が一番怖かったのは我が家の愛犬のようで、その後何回か緊急地震速報が鳴るたびに1番先に外に出るようになりました。

10年ひと昔と言いますが、忘れてしまっている事も多いと思います。阪神淡路大震災など災害(風水害も)が続いていますが、東日本大震災から10年の今、新たに災害への備えについて考えてみてはいかがでしょうか。

ちなみにこの日、次女の大学では卒業式が行われていて、袴姿の卒業生は家に帰れなかったそうです。

(若松町幸 S.K)